

176 マダイはえ縄〈西彼・大村湾編〉

調査地 長崎市網場

1) 漁具

(1) 見取図

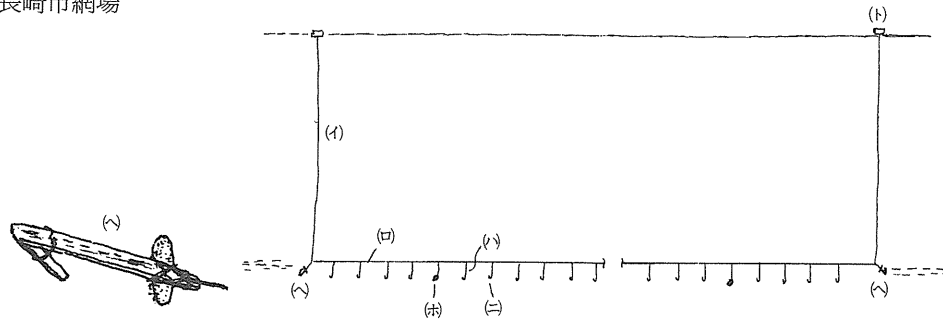


図176 一般構成

(2) 漁具仕様

表176 仕様表 (1鉢分)

| 符号 | 名称 | 材質 | 規格・寸法 | 数量 | 備考 |
|-----|-----|---------|-------------|---------|------------|
| (イ) | 浮標縄 | クレモナ | 120本 2子 | | 全漁具に2本 |
| (ロ) | 幹縄 | ナイロンテグス | 20号 | 1,000m | |
| (ハ) | 枝縄 | 〃 | 8号 3m | 80~100本 | |
| (ニ) | 釣針 | 鋼 | 8号 | 〃 | タイ釣 |
| (ホ) | オモリ | 石 | 細長 約10cm | 1~2個 | |
| (ヘ) | 碇 | 石と木材 | 1kg | 2個 | 1連の両端に取付る。 |
| (ト) | 浮標 | 発泡スチロール | 100番浮力 20kg | 2個 | 〃 |

2) 漁法

日の出1~2時間ぐらい前に漁場に到着し直ちに投縄する(4~5鉢使用)。

投縄完了約1時間の後、投縄開始地点より船首の揚縄機を使って揚縄する。

餌は小エビ、スナムシなどを用いる。

3) 使用漁船および乗組員

漁船は1~3トン、乗組員は1人。

4) 漁期・漁場

漁期は周年であるが、盛期は春から秋、漁場は瀬際(岩礁と砂の境)地帯である。

5) 漁獲物

タイ、コチ、クロダイ(チヌ)など。

177 カサゴはえ縄(磯魚用)〈西彼・大村湾編〉

調査地 長崎市網場

1) 漁具

(1) 見取図

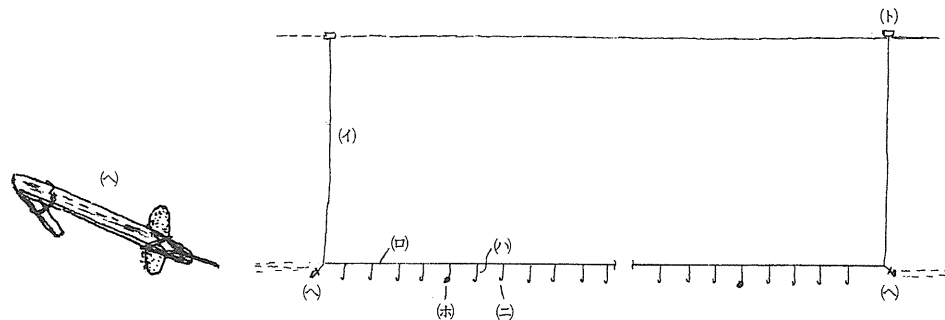


図177 一般構成

(2) 漁具仕様

表177 仕様表(1鉢分)

| 符号 | 名称 | 材質 | 規格・寸法 | 数量 | 備考 |
|-----|-----|---------|----------|---------|------------|
| (イ) | 浮標綱 | クレモナ | 180本 3子 | 2本 | 全漁具で2本 |
| (ロ) | 幹縄 | 〃 | 120本 2子 | 800m | |
| (ハ) | 枝縄 | ナイロンテグス | 8号 | 80~100本 | |
| (ニ) | 釣針 | 鋼 | アラカブ用6号 | 〃 | |
| (ホ) | オモリ | 自然石 | 細長 10cm | 12個 | |
| (ヘ) | 碇 | 〃 | 1kg | 2個 | 1連の両端に取付ける |
| (ト) | 浮標 | 発泡スチロール | 浮力 約20kg | 2個 | 〃 |

2) 漁法

漁法はタイはえ縄とほぼ同じ、餌は塩漬のイワシ、キビナゴを用いる。

使用漁具は5鉢程度である。

3) 使用漁船および乗組員

1~3トン, 1~2人乗組み。

4) 漁期・漁場

漁期は周年, 漁場は戸石~野母崎, さらに天草沖の岩礁域である。

5) 漁獲物

カサゴ主体その他の磯魚。

178 サヨリ浮はえ縄<昭和63年>

調査地 島原市田町(旧島原市北部漁協)

沿革 昭和10年(1935年)頃から行われるようになったと思われるが, 導入経緯は不明。平成元年(1989年)で5統着業。

1) 漁具

(1) 見取図および一般構成

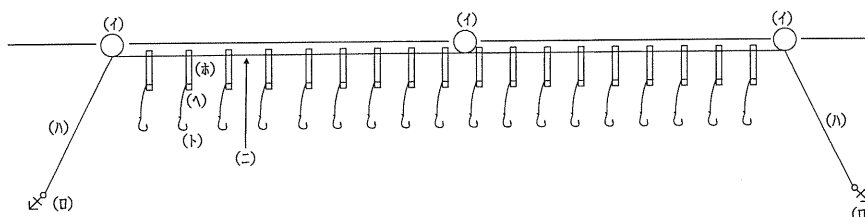


図178-1 操業見取図

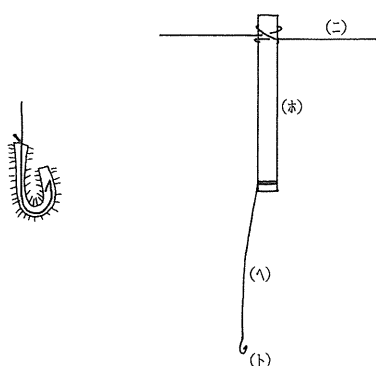


図178-2 枝部構成と装餌方法

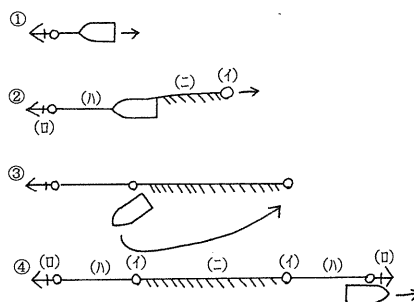


図178-3 漁具敷設方法

(2) 漁具仕様

表178 仕様表 1鉢分

| 符号 | 名称 | 材質 | 規格・寸法 | 数量 | 備考 |
|-----|-----|---------|-------------------------------------|-----|---------------------|
| (イ) | 浮標 | 発泡スチロール | | 4～5 | 目印として幹繩の途中に2～3個つける。 |
| (ロ) | 錨 | 鉄 | φ15mmの鉄筋で自作、軸の長さ50～60cm、爪の長さ25～30cm | 2 | |
| (ハ) | 錨網 | パイレン | 中古のパレン繩 8～10m | 2 | |
| (ニ) | 幹繩 | クレボリ | 3mm 2子撚り 80m | 1 | 枝間隔80cm |
| (ホ) | 枝木 | 杉材 | φ10～15mm×L30cm | 100 | 幹繩にクラブヒッチでとめる。 |
| (ヘ) | ハリス | ナイロン | 3号 25cm | 100 | 杉材の下端にまき付ける。 |
| (ト) | 釣針 | 鋼 | サヨリ針 大 | 100 | |

2) 漁法

操業には1鉢を使用し、操業前に枝木を80cm間隔で幹繩にまき結び（クラブヒッチ）で取り付けておく。餌はゴカイを使用し、釣針の針に沿って、針先が少し隠れる程度に付ける。

朝まずめ時に出港し、日の出頃から操業する。

投縄は、図178-3に示すように①船首からはえ繩用アンカーを打ち、船を固定し、②船尾から漁具を潮下に流し、③漁具を出し終わってから幹繩をアンカーロープに固定して、潮下側の幹繩に移動し、④幹繩とアンカーロープを取り付けて、潮下側のアンカーを打ち、終了する。はえ繩は1日の操業が終わるまで投入したままで操業する。

はえ繩が落ち着いたところで、幹繩の潮上側から潮下側に向かって縄を伝いながら移動しつつ針にかかった魚を外し、直ちに餌を付けていく。潮下側の端まで移動したら再び潮上側へ移動し、1サイクル15分ほどかかるこの作業を朝夕に3～4回づつ繰り返す。

3) 使用漁船および乗組員

0.3～1トンの船外機船

4) 漁期・漁場

漁期は4～5月（小型魚主体）、10月（30cm程度の大型魚）である。

漁場は島原市北部漁協共同漁業権内で、特に浅場の瀬際で干潮時の水深が4～5mの海域であり、通称犬瀬、猫瀬周辺が良い漁場となっている。

5) 漁獲物

サヨリで、単価1,500円/kg程度、1日に20～40尾漁獲する。

6) その他

日暮れ時は魚が針からはずれて逃げることが多い。また潮の変わり目がよいが潮止まり、潮流の最も速い時間帯は良くない。

島原市湊地区では漁具を固定せず、船をアンカーで固定した状態ではえ繩（枝木30本）を流して手釣りし、魚が掛かった時にその都度手繰りあげている。

179 スズキはえ繩（中浮繩）〈平成13年〉

調査地 島原市有馬船津

沿革 不明。島原市漁協管内では平成元年（1989年）5統着業、平成13年（2001年）は漁業としては行っていない模様である。

1) 漁 具

(1) 見取図および一般構成

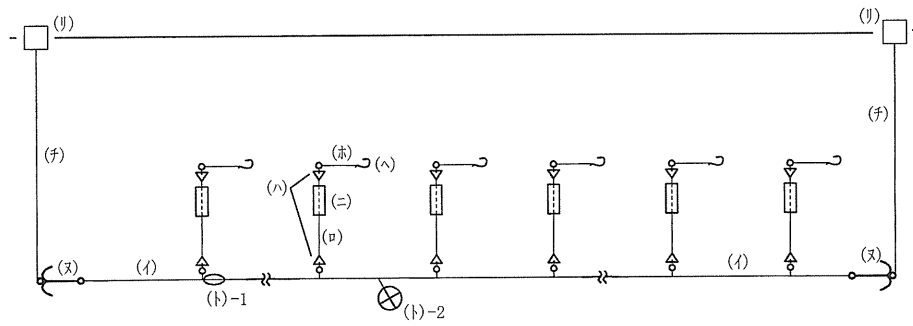


図179-1 操業見取図

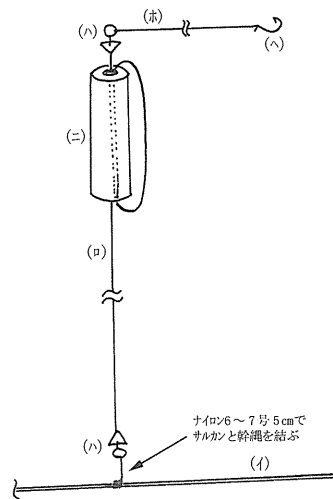


図179-2 枝部構成

表179 仕様表 (1鉢分)

| 符号 | 名称 | 材質 | 規格・寸法 | 数量 | 備 考 |
|-------|--------|---------|---|------|--|
| (イ) | 幹 縄 | パイレン | 3~4mm 430m | 1 | 枝3~5本おき8匁鉛を枝の付け根に取り付ける。枝7本当たりにこぶし大自然石1つを取り付ける。 |
| (ロ) | 枝 糸 | ナイロン | 6~7号 3m | 40 | 筒状の浮子の穴に2回通してハリス側の端に固定する。 |
| (ハ) | 三角サルカン | | | 80 | 枝糸の両端につける。幹縄にはナイロン6~7号5cmで結び付ける。 |
| (ニ) | 浮 子 | 合成樹脂 | パーマフロート C-8LK (浮力81g, 長さ35cm) の長さを3等分したもの | 40 | 枝糸のハリス側で固定する。 |
| (ホ) | ハ リ ス | ナイロン | 5~6号 1.5m | 40 | |
| (ヘ) | 針 | 鋼 | 伊勢尼12号 | 40 | |
| (ト-1) | 沈 子 1 | 鉛 | 8匁 | 8~13 | 枝3~5本おきに枝の付け根に取り付ける。 |
| (ト-2) | 沈 子 2 | 自然石 | こぶし大 | 6 | 枝7本当たりに1つを取り付ける。 |
| (フ) | 浮 標 綱 | クレポリ | 3~4mm 水深×1.5 | 2 | 1連分 |
| (リ) | 浮 標 | 発泡スチロール | | 2 | |
| (コ) | 錨 | 鋼 | 1.5kg | 2 | 軸の両端に環があり、浮標綱は爪側、幹縄は軸側に直結する。 |

2) 漁法

1連2鉢を基本にして、1日3～4鉢を使用する。餌はアナジャコ、アカエビの活きたもの、ユムシなどを使用する。

昼間に操業するとフグ類（ガンバ）に餌を喰われるため、操業は夕刻に投縄し、翌朝揚縄する。

3) 使用漁船および乗組員

漁船規模は特になし。

4) 漁期・漁場

漁期は5～7月、漁場は島原半島周辺の水深5～7mの海域である。

5) 漁獲物

主にスズキ

180 スズキはえ縄（底縄）〈平成13年〉

調査地 島原市有馬船津

沿革 不明。島原市漁協管内着業統数，平成元年（1989年）5～6統，平成13年（2001年）2統。

1) 漁具

(1) 見取図および一般構成

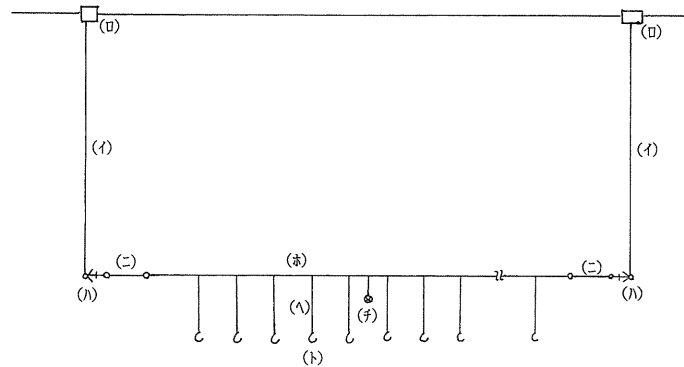


図180 一般構成

(2) 漁具仕様

表180 仕様表（1鉢分）

| 符号 | 名称 | 材質 | 規格・寸法 | 数量 | 備考 |
|-----|--------------|---------|----------------|----|---------------------------|
| (イ) | 浮標綱 | クレポリ | 3～4mm 水深×1.5～2 | 2 | |
| (ウ) | 浮標 | 発泡スチロール | 30cm×30cm×30cm | 2 | |
| (ク) | 錨 | 鋼 | 1.5kg | 2 | 軸の両端に環があり，爪側の環に浮標綱を結びつける。 |
| (コ) | 錨綱 | クレモナ | 80本 | 2 | 幹縄側はツボ。 |
| (カ) | 幹縄 | ナイロン | 40号 460～540m | 1 | 枝5本当たりに縄おもり1つを取り付ける。 |
| (キ) | 枝縄 | ナイロン | 10～12号 2.25m | 50 | |
| (ク) | 釣針 | 鋼 | タイ縄10号 中太 | 50 | |
| (ケ) | 縄おもり (手石) | 自然石 | こぶし大 | 9 | クレモナ40本0.2～0.3mで幹に取り付ける。 |

2) 漁法

操業には1日2鉢を目安に使用するが、餌のユムシが大量に手に入らないので、ユムシの数量で鉢数が制限される。

スズキは昼間ユムシ以外の餌をなかなか喰わないが、ユムシの喰いは良いため餌として使用している。装餌するときは1個のユムシを2～5片に斜め切りにし、投縄時に水中で回転しないようにチョン掛けする。

3～4月の操業時間帯は日没時投縄，翌朝日の出時揚縄，5～10月は日の出時投縄，1時間後揚縄である。投縄方向は潮流を横切る方向である。

3) 使用漁船および乗組員

1～3トン

4) 漁期・漁場

漁期は3～10月である。

漁場は船が通れるくらいの深さから約45mの水深の海域である。

5) 漁獲物

全漁獲物に対してスズキ4割，クロダイ5割，マダイ1割の割合である。

181 底立はえ縄 <平成13年>

調査地 西有家町

沿革 昭和40年代後半（1970～1975年）に鹿児島県から導入された。平成13年（2001年）5統着業。

1) 漁具

(1) 一般構成

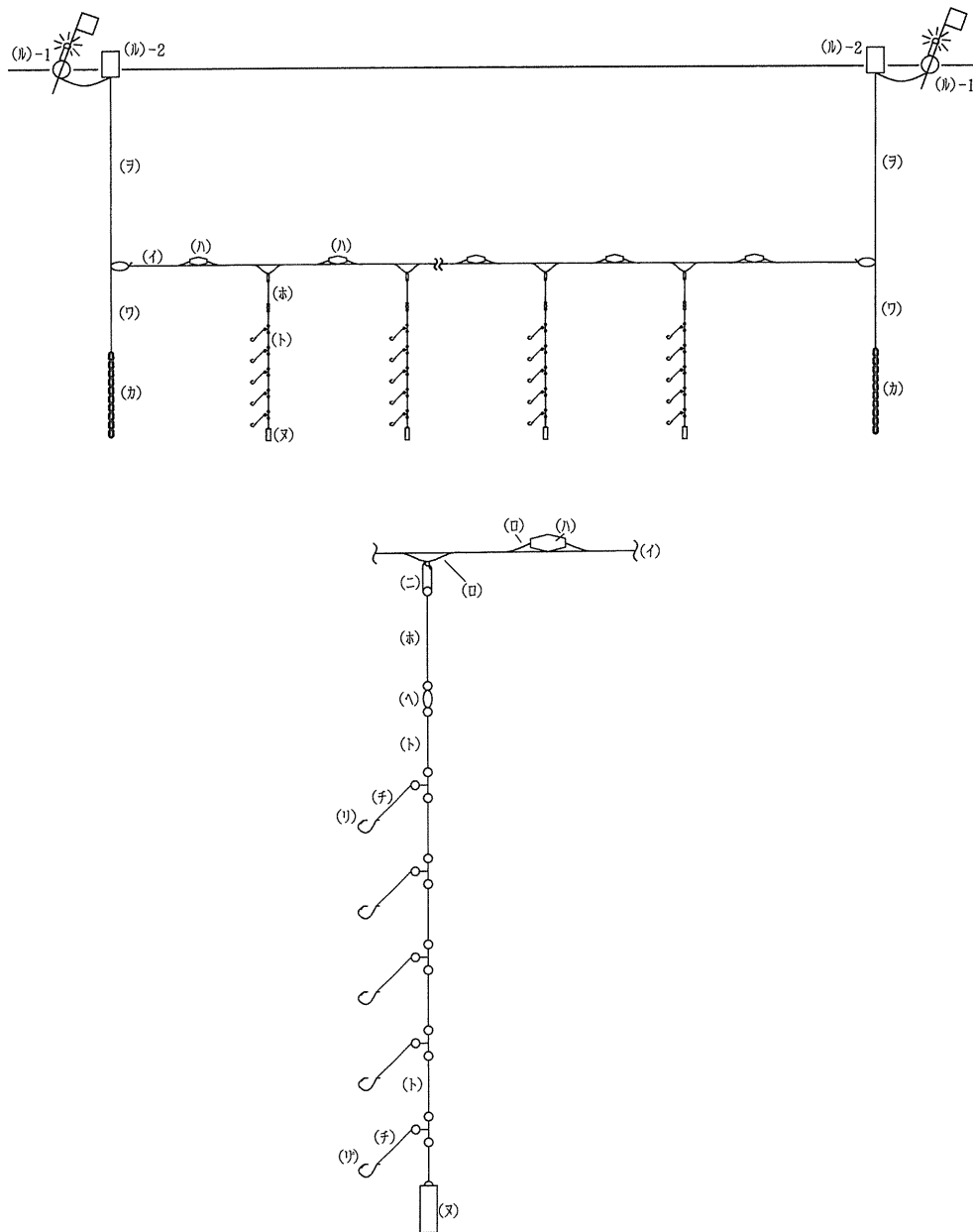


図181 一般構成

(2) 漁具仕様

表181 仕様表(1鉢分)

| 符号 | 名称 | 材質 | 規格・寸法 | 数量 | 備考 |
|-------|----------|---------|----------------------|-----|--------------------------------------|
| (イ) | 幹 縄 | パイレン | 5～8mm 1,000m | 1 | 鉢の両端に輪をつくる。底質が瀬の時φ7～8mm, 砂泥の時φ5～6mm。 |
| (ロ) | 添 綱 | パイレン | 3～5mm 10～20cm | 101 | 両端を幹縄により込む。クレモナの場合もある。 |
| (ハ) | 中間浮子 | 合成樹脂 | ビニー 3T-5 浮力120g | 51 | 添綱に通して取り付け。 |
| (ニ) | ブランチハンガー | ステンレス | | 1 | 一枝分。幹縄への取付は添綱に取り付ける。 |
| (ホ) | 枝 縄 1 | クレモナ | 50×3本 7.6m | 1 | 枝間隔20m。 |
| (ヘ) | サルカン | | | 1 | |
| (ト) | 枝 縄 2 | ナイロン | 60本 0.8m | 5～6 | それぞれを三又サルカンで繋ぐ |
| (チ) | ハリス | ナイロンテグス | 16号 0.6m | 4～5 | |
| (リ) | 釣 針 | 鋼 | ムツ針 13～14号 | 4～6 | |
| (ヌ) | 錘 | コンクリート | L20cm×5cm×5cm 1kg | 1 | 鉄筋の場合は300g |
| (ル)-1 | 浮 標 1 | 発泡スチロール | 旗・標識灯付 | 2 | 1連分。浮標2に取り付ける。 |
| (ル)-2 | 浮 標 2 | 発泡スチロール | 発泡3号 | 2 | |
| (ヲ) | 浮 標 綱 | クレモナ | 8mm 水深×1.5 | 2 | |
| (ヅ) | 錨 綱 | クレモナ | 8mm 9.1m | 2 | |
| (メ) | 碇 | チェーン | 5～6kg | 2 | |

2) 漁 法

漁場までの往復4昼夜を含め、13～15日間の航海を年間約20航海行う。1日の操業回数は3回程度、1操業に1鉢50枝(4～6針/枝)を15～20鉢使用する。

操業は朝まずめ時から行い、1時間半程かけて潮を横切るように一直線に投縄、投縄終了後30分～1時間で揚縄を開始し、3～4時間かけて揚縄を終える。枝縄の収納は幹縄からスナップを外した後、箱の外にスナップをおいてナイロン、錘と上の方から繰り入れる。これと同時に次の操業のために餌を付けていく。

3) 使用漁船および乗組員

19トン、160～180馬力、3～5人乗組み。

(平成元年(1989年)頃は一般的に7～8人乗組み)

4) 漁期・漁場

漁期は周年で、盛漁期は1～5月である。

漁場は女島近海、クチミノセ南方の水深100～200mの海域である。

5) 漁獲物

キダイ・アマダイ類。

6) その他

以前は年間300～500箱の水揚げがあったが、平成13年(2001年)現在はその半分以下と思われる。乗り子も漁獲減による収入減少により少なくなっている。平成元年(1989年)頃から10トン弱の韓国はえ縄漁船が進出してきて競合が激しくなってきた。魚価は長崎魚市の中国漁船からの入荷量によって左右されている。

182 カサゴ (カブ) 縄 <昭和63年>

調査地 布津町布津

1) 漁具

(1) 見取図および一般構成

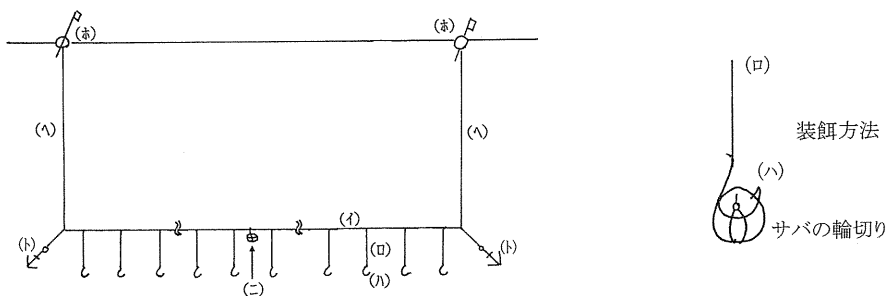


図182 一般構成

(2) 漁具仕様

表182 仕様表 (1鉢分)

| 符号 | 名称 | 材質 | 規格・寸法 | 数量 | 備考 |
|-----|-------|---------|-----------------------|---------|--------------------------------|
| (イ) | 幹 縄 | テトロン | 3子撚80本 540~680m | 1 | |
| (ロ) | 枝 糸 | ナイロンテグス | 10号 0.7m | 120~150 | |
| (ハ) | 釣 針 | 鋼 | 尾中13号または島原丸形13号 | 120~150 | |
| (ニ) | 手 石 | 自然石 | 400~500 g | 17~25 | 枝6~7本ごとに紐を使って、幹縄に結びつける。 |
| (ホ) | 浮 標 | 発泡スチロール | φ45cm×30cm 両端には旗竿を付ける | 2 | 1連分。1連4鉢以上のときは中間に浮標、浮標綱、錨をつける。 |
| (ヘ) | 浮標・錨綱 | クレポリ | 14~16mm | 2 | |
| (ト) | 錨 | 鉄 | 2 kg | 2 | |

2) 漁法

1箇所に3~5鉢使用し、1回の操業に計20鉢使用する。餌は冷凍サバを針のサイズに合わせて輪切りにしたものを使用する。

操業時間帯は上げ潮の動き出しとし、投縄は潮を横切る方向に行う。

3) 使用漁船および乗組員

3トン、70馬力。

4) 漁期・漁場

漁期は魚価が高い冬季で、漁場は布津~ゴング沖の水深60~90mの海域である。

5) 漁獲物

カサゴ主体。

183 カサゴはえ縄 <昭和63年>

調査地 南有馬町

1) 漁具

(1) 見取図および一般構成

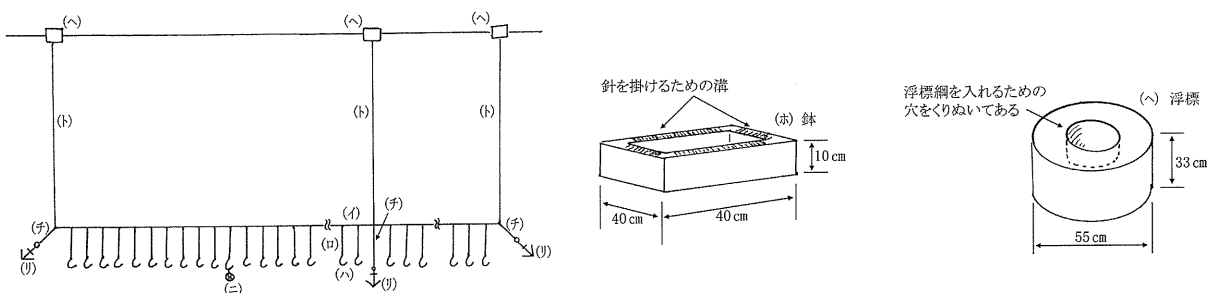


図183 一般構成

(2) 漁具仕様

表183 仕様表(1鉢分)

| 符号 | 名称 | 材質 | 規格・寸法 | 数量 | 備考 |
|-----|-------|---------|----------------------------|------|-------------------------|
| (イ) | 幹 縄 | クレモナ | 300本 (または綿糸330本) 60m | 1 | 枝間0.4m |
| (ロ) | 枝 糸 | ポリ | 12本 0.3m | 150 | |
| (ハ) | 釣 針 | 鋼 | サバはえ縄針14号 カエシなし | 150 | |
| (ニ) | 手 石 | 自然石 | こぶし大 | 15 | 枝約10本おきに1個 |
| (ホ) | 鉢 | 木 | 40cm×40cm×高さ10cm | | 縁に針を掛けるための溝が1辺38本彫ってある。 |
| (ヘ) | 浮 標 | 発泡スチロール | φ55cm×33cm 浮標綱が入れられるようくりぬく | 鉢数+1 | 1連分。1連の両端と鉢のつなぎ目に入れる。 |
| (ト) | 浮 標 綱 | クレモナ | 5mm 水深×1.5 | 鉢数+1 | |
| (チ) | 錨 綱 | クレモナ | 5mm | 鉢数+1 | |
| (リ) | 錨 | 鉄筋 | 1.5kg | 鉢数+1 | |

2) 漁 法

漁具は1人乗組みの場合、1連2鉢(1鉢150m)を1日あたり6連程度使用する。2人乗組みの場合は、1連3鉢(1鉢200m)を1日あたり10連程度使用する。餌はカタクチワシの塩漬け(尾叉長10cmサイズ)を3~4片にブツ切りにしたもの。

操業船が多いため、投縄は直線状に潮下に向かって行う。揚縄は投縄終了後直ちに潮上側から行う。

3) 使用漁船および乗組員

0.5~4トン(1トン前後主体)、1~2人乗組み。

4) 漁期・漁場

漁期は4月~翌年1月までで、10月~翌年1月の間は着業統数が多く、盛漁期は12月~翌年1月である。

漁場は瀬詰先沖、早崎瀬戸沖合の水深20~120m(主に100m付近)の海域である。

5) 漁獲物

カサゴ。魚価は手取りで1,300円/kg前後。

1人乗組み漁船で、1日1隻あたり10~15kgの水揚げがあり、平成元年(1989年)当時の南有馬町漁協全体の年間漁獲量は100~120トンである。

6) その他

2月1日~3月31日は自主規制期間。

184 キスはえ縄<昭和63年>

調査地 布津町布津

1) 漁 具

(1) 見取図および一般構成

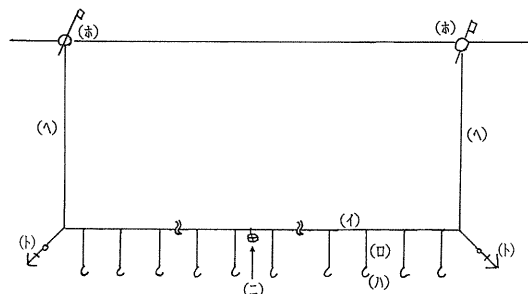


図184 操業見取図

(2) 漁具仕様

表184 仕様表 (1鉢分)

| 符号 | 名称 | 材質 | 規格・寸法 | 数量 | 備考 |
|-----|-------|---------|-----------------------|---------|-------------------------|
| (イ) | 幹 縄 | テトロン | 3子撚80本 540~680m | 1 | |
| (ロ) | 枝 糸 | ナイロンテグス | 7号 0.7m | 120~150 | |
| (ハ) | 釣 針 | 鋼 | 尼中7号 | 120~150 | |
| (ニ) | 手 石 | 自然石 | 400~500g | 17~25 | 枝6~7本ごとに紐を使って、幹縄に結びつける。 |
| (ホ) | 浮 標 | 発泡スチロール | φ45cm×30cm 両端には旗竿を付ける | 2 | 1連分。 |
| (ヘ) | 浮標・錨網 | クレポリ | 12mm | 2 | |
| (ト) | 錨 | 鉄 | 2kg | 2 | |

2) 漁 法

1箇所に2~3鉢使用し(小潮時)、1回の操業に計10~14鉢使用する。餌はイワムシを使用する。操業時間帯は上げ潮の動き出しとし、投網は潮なりに行う。

3) 使用漁船および乗組員

3トン, 70馬力。

4) 漁期・漁場

漁期は5~7月で、漁場は湯島北側の水深60~90mの海域である。

5) 漁獲物

シロギス主体。

185 フグはえ縄<昭和63年>

調査地 布津町布津

1) 漁 具

(1) 見取図および一般構成

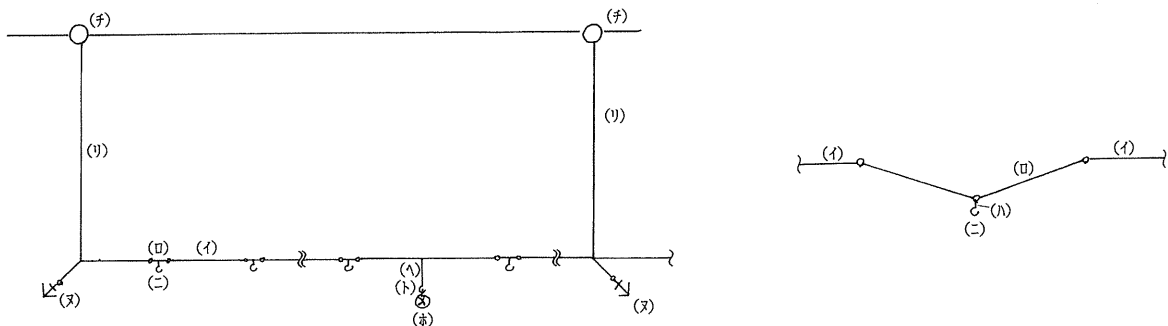


図185 一般構成

(2) 漁具仕様

表185 仕様表 (1鉢分)

| 符号 | 名称 | 材質 | 規格・寸法 | 数量 | 備考 |
|-----|-------|----------------|-----------------|-----------|----------|
| (イ) | 幹 縄 | テトロン | 2子撚80本 330~475m | 1 | 枝間隔4.5m |
| (ロ) | ジャンガネ | | 12~14号 | 70~100 | 通常85~90本 |
| (ハ) | 枝 糸 | アミランまたはスパンナイロン | 10号 3cm | 70~100 | |
| (ニ) | 釣 針 | 鋼 | フグ釣 下関型 | 70~100 | |
| (ホ) | 中間沈子 | 自然石 | 700g程度 | 4~5 | 枝20本おき |
| (ヘ) | 沈子用枝 | スパンナイロン | 60~80本 0.75m | 4~5 | |
| (ト) | 沈子用針 | 鋼 | | 4~5 | |
| (チ) | 浮 標 | 発砲スチロール | | 3~4鉢おきに1個 | 1連分 |

| 符号 | 名称 | 材質 | 規格・寸法 | 数量 | 備考 |
|-----|-------|------|-------|-----------|----|
| (リ) | 浮標・錨綱 | クレボリ | 12mm | 3～4鉢おきに1個 | |
| (ヌ) | 錨 | 鉄 | 2kg | 3～4鉢おきに1個 | |

2) 漁法

操業には1箇所20～30鉢で、合わせて1日40鉢使用する。また餌は冷凍サバ、小サバの9～10片に切ったものを使用する。

フグはいつでも喰うため、操業時間を選ばない。はえ縄は潮なりに投縄する。

3) 使用漁船および乗組員

3トン、70馬力。

4) 漁期・漁場

漁期は10～12月で、漁場は布津～ヨツヤの下、八代近辺である。

5) 漁獲物

フグ類。

186 ベラはえ縄〈昭和63年〉

調査地 布津町布津

1) 漁具

(1) 見取図および一般構成

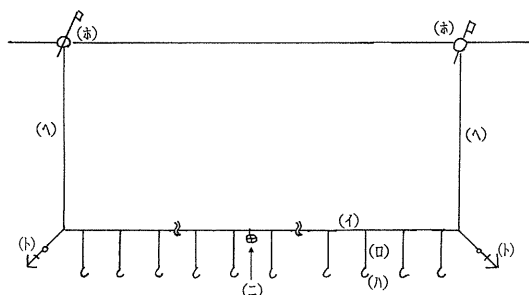


図186 操業見取図

(2) 漁具仕様

表186 仕様表(1鉢分)

| 符号 | 名称 | 材質 | 規格・寸法 | 数量 | 備考 |
|-----|-------|---------|-----------------------|---------|-------------------------|
| (イ) | 幹縄 | テトロン | 3子撚80本 540～680m | 1 | |
| (ロ) | 枝糸 | ナイロンテグス | 7号 0.7m | 120～150 | |
| (ハ) | 釣針 | 鋼 | 尼中7号 | 120～150 | |
| (ニ) | 手石 | 自然石 | 400～500g | 17～25 | 枝6～7本ごとに紐を使って、幹縄に結びつける。 |
| (ホ) | 浮標 | 発泡スチロール | φ45cm×30cm 両端には旗竿を付ける | 2 | 1連分。 |
| (ヘ) | 浮標・錨綱 | クレボリ | 14～16mm | 2 | |
| (ト) | 錨 | 鉄 | 2kg | 2 | |

2) 漁法

1箇所に2～3鉢を使用し、1操業に計20鉢使用する。餌はイワムシを使用する。

操業時間帯は日の出以降であり、投網は潮なりに行う。

3) 使用漁船および乗組員

3トン、70馬力。

4) 漁期・漁場

漁期は5～7月であり、漁場は布津～鬼池、三角沖の水深60～90mの海域である。

5) 漁獲物

ベラ主体。